

令和6年度 第3回 萩丘小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年11月18日（月） 14時30分～16時
- 2 開催場所 萩丘小学校 会議室
- 3 出席委員 長谷 明浩、岡本 譲、大橋 邦久、渡邊 貴子、門奈 正弘、北田 由美、
増崎 桂
- 4 欠席委員 鈴木 莞爾、鈴木 健太郎
- 5 オブザーバー 鈴木 克隆（北部協働センター）
- 6 学校 須藤 邦夫（校長）、袴田 洋史（教頭）、太田 健太郎（主幹）、鈴木 かおり
（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 鈴木 かおり
- 10 議長選出 司会から、長谷委員を推挙する旨の発言あり、全員異議なくこれを承認した。
- 11 協議事項
 - （1）全国学力調査をふまえて身につけたい力について
 - （2）運動会、修学旅行の事後アンケート結果について
 - （3）次年度の教育課程について
 - （4）地域の防災対策について（防災、見守り隊、旗振り）
- 12 報告
 - （1）本校のコミュニティ・スクールの取り組みについて
- 13 会議記録 委員総数9人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため会議成立している旨の報告があった。

【協議事項】

(1) 全国学力調査をふまえて身につけたい力について

主幹より学校だより(9月27日号)に基づき分析結果、改善策について報告があった。国語、算数ともに平均より5%程度低い結果だった。上位層、下位層の二極化傾向がみられる。ゲーム時間においても二極化がみられる。スマホ所有率も高い。情報モラル指導を計画的に実施していく。

*二極化は他の学校でもみられるのか。(長谷委員)

- ・半数くらいの学校である(主幹)
- ・教員時代、国語が全国最下位だった時、校長を集めて叱責があった。子どもの学力=教師力だと言われた。原因は思考力を求める問題へのテスト形式の変化、地域差があった。毎日、何かにこだわって取り組む時間が必要。(大橋委員)

*興味、関心を上げる構想は。(大橋委員)

- ・校内でも危機感をもっている。読書だけをする時間を設ける。1~2年生は計算カード、2年生で九九できなかった子に3年生での九九の定着。計算プリントを毎日継続し自分で丸付けなど、少しずつ基礎学力をつける努力をしている。(主幹)
- ・いろいろ取り組んで学年ごとの変化もみていってほしい。(大橋委員)
- ・学期ごとの目標をもってやったらどうか。(九九をいつまでに覚えるなど)教えあうこともできる。(長谷委員)
- ・廊下にある漢字表は楽しく覚えるためにもいい。(北田委員)

*いろいろな立場から子どもたちにどんな力を身につけてほしいか意見を聞きたい。(教頭)

- ・子育て中の親としてゲーム、勉強時間が気になる。家庭のフォロー、学校との連携、本人の力が必要。萩丘サポーターズクラブとしてはボランティア、外部講師など学校以外の人たちとの関わりを通して感謝、挨拶。将来大人になった時、自分は何ができるか考えられるよう今のうちから考えてもらいたい。(北田委員)
- ・子どもたちとさまざまな立場で接しているが挨拶を身につけてほしい。三分の一が挨拶できない。場面が変わると子どもの態度も変わり壁がとれ関係性も変わる。挨拶は恥ずかしいことではなくコミュニケーションのツールだと知ってほしい。(増崎委員)
- ・何ができないのか考えるのではなく自己肯定感を育ててあげたいし持ってもらいたい。出来ただけでなく出来ない自分も認め受け入れてほしい。助けて、手伝って、教えてと誰かに伝えられる子であってほしい。できない子が多いが、声を上げないと何に困っているかわからない。(渡邊委員)
- ・数字として見える学力も大切だと思う。今まで生活指導に力を入れてきた。学力向上プロジェクトを打ち立てまずは読書から。静かな落ち着いた環境で本を読む。萩丘小は不登校が少ない。学校に行けば何か楽しいことがあると思える学校。学校力が学校風土を作る。生きていく力、幸せに生きる力が大切。目に見える学力と心の力を育める学校に。自己肯定感を上げるには、本人のバックグラウンドを知らない地域の人にちょっとし

たことを褒めてもらえると素直に喜べる。学校では出来ないことを地域と協力してや
っていききたい。(校長)

- ・楽しく、仲良く、元気よく。危険回避、身を守る、防災防犯。生きていくための心と身
体。笑顔とコミュニケーション能力。安心な家庭、安全な地域。(長谷委員)
- ・教員の知らないことを知っている地域による「ななめの関係」で、さりげなく褒めてく
れる、地域とのふれあいの場面を増やしていく。勉強に取り組む前の環境づくりが大切
だが難しい家庭もある。ここも地域の力が大切。以前大学生と元教員で力が足りない子
に補修を行ったこともあった。放課後の居場所づくりとして ふれあいスクールの開
催は大きい。保護者や地域に知ってもらえる機会にもなる。(総務課 鈴木先生)

(2) 運動会、修学旅行の事後アンケート結果について

校長より学校だより(11月13日号)に基づいて説明があった。子どもに考えさせてや
らされるのではなく自分たちで作る運動会。得点制ではない運動と応援すること自体を
楽しむ運動会。アンケートからも理解がみられた。以前あった違法駐車、騒音の苦情もな
かった。

- ・飛行機の音にも惑わされずできてすごかった。(大橋委員)
- ・学年での縦割りが難しくなった。今回、一つのクラスを半分に分けることがなくてよか
った(渡邊委員)

*城落とし、騎馬戦はどうですか。(主幹)

- ・三方原合戦のほうよかった。続けている学校が少ないので残してほしい。(渡邊委員)
- ・6年の授業でもやるので城落としというより武田軍、徳川軍でできたらと思う。クラス
を2つにわけるとは悩むが。(北田委員)
- ・舞台になった場所なので残して行ってほしい。(長谷委員)

(3) 次年度の教育課程について

校長より、次年度の予定が報告された。4月7日始業式、5月2日学校公開日、5月末
運動会、10月林間学校、10月末修学旅行 12月学習発表会、90周年記念(体育館に
て)3月17日卒業式。

*90周年は実行委員会を作るのか。(長谷委員)

- ・作る予定(校長)

(4) 地域の防災対策について(防災、見守り隊、旗振り)

教頭より防災訓練参加の児童への呼びかけ、旗振り当番の日程決めについて説明があ
った。

門奈委員より、見守り隊、よむよむの人集めが難航している。PTA、学校と相談して地
域へ回覧板で情報を流していくと説明があった。ボランティアの声が上がらないのは情

報公開が足りず地域に浸透しない。課題、情報をどんどん発信していきたい。見守り隊として在校生のおじいちゃんおばあちゃんを誘う計画がある。お孫さんを見守って一緒に登校。タスキをかけてもらうことによって犯罪の抑止力になる。

* かけこみ 110 番の家の見直しをしたほうがいい。(長谷委員)

・数年に 1 回チェックするときがある。確認してみる。(主幹)

* インフルエンザなどの感染症で休む子は多いのか。休んでいる間の授業のフォローしてあげたらどうか。(岡本委員)

・毎日 30 名程度休む。マイコプラズマと限らないが咳が多い。担任から連絡してフォローしている。(校長)

【報告】

(1) 本校のコミュニティ・スクールの取り組みについて

北田委員より資料に基づき説明があった。

・3年総合このまち大すき四ツ池探索。事前学習として四ツ池公園の魅力、歴史など増崎さんより説明。探索ではチェックポイントを探したり、公園管理事務所の藁科さんより公園管理の説明を受ける。

・国語すがたをかえる大豆ではボランティアさんの協力を得て、醤油の香り体験、原料を見て触る、3種類（諸味、生、濃口）の醤油の味見体験などを行った。

・北部協働センターの協力のもと常葉大学生による「めぎせアスリート！走る・跳ぶ・勝つための筋肉の動き」講座を開催。(参加者 80 名弱、ボランティア 10 名) 運動が苦手な子でもコツを教えてもらうことで、その成果を楽しみとして運動会を迎えることができた。

→大学と調整がうまく取れなかったので今後もっと密にやっていきたい。(北部協働センター)

・6年社会歴史、浜松時代の家康。歴史ガイドの青野さんより三方ヶ原の戦い、史跡の伝説についての話を聞く。

増崎委員より資料に基づきスタサポの活動報告があった。

・スタサポ実施の中で、サポートする内容の説明が行き届かないことがある。来年度に向けて活動についてのルールブックを作りたい。

・シャワーズ活動写真を職員室前に掲示。今後も活動報告に使っていきたい。

その他の報告事項等

司会から次回会議は、令和 7 年 2 月 17 日〈月〉14 時 30 分から会議室で開催する旨の報告があった。